



氷河情報センター分科会報告

雪氷研究大会 (2008・東京) において氷河情報センターのオーガナイズドセッションおよび総会を開催した。オーガナイズドセッションでは、『ヒマラヤの氷河湖決壊洪水』として3件の講演と質疑応答、意見交換がなされた。引き続き行われた総会では、活動・会計報告、役員改選ならびに活動方針・予算案の承認、その他を行った。

日 時：9月25日(木) 13:00～15:00
(総会 14:30～)

場 所：東京大学工学部 (2号館 212 講義室)

オーガナイズドセッション：ヒマラヤの氷河湖決壊洪水

最近ヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水 (GLOF) が、地球温暖化に伴う一つの象徴的な問題として、各種マスメディアに取り上げられ、以前にも増して社会的注目を集めている。そこで本オーガナイズドセッションでは、『ヒマラヤの氷河湖決壊洪水』と題し、まずヒマラヤの GLOF に関する研究経緯や社会情勢、次に地盤工学的見地からの最新の研究成果と課題、さらに今後の GLOF 対策に関する具体的な研究計画について、以下の3件の講演を企画した。

講演の内容は、最初に NPO 法人雪氷ネットワークの山田知充氏に「ヒマラヤの氷河湖決壊洪水～昨今の社会情勢と今後の研究課題～」と題して、昨年来の氷河湖決壊洪水を巡るマスメディアや政府関係機関の動向と、実際のヒマラヤにあるイムジャ氷河湖のこれまでの研究成果と現況を説明していただいた。

次に日本大学工学部の梅村順氏に「氷河湖堰止めモレーンの地盤工学的性質とそれに基づく対策の課題」と題して、主に地盤工学的見地からの氷河湖決壊対策について分かりやすく説明いただいた。特に現地で実行・継続が可能なシステムとするため、自然エネルギーを利用した、高度な技術

によらないシステム設計の必要性を強調された。

最後に名古屋大学大学院環境学研究科の西村浩一氏から「ブータンヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水に関する研究計画」と題して、科学技術振興機構と国際協力機構のもとに実施予定の、ブータンヒマラヤでの氷河湖決壊洪水に関する研究計画を説明していただいた。本計画は今年度採択されたばかりで、未だ正式スタートの待機中であるものの、海外での調査研究の新しい形になることが予見された。

限られた時間内でのセッションではあったが、活発に質疑応答がなされた。氷河湖の実像解明の進展と現地での災害対策の進歩が予感されたセッションであった。

総会：

1) 活動報告・会計報告

<2007-08 年度活動報告>

1. 2008 年度総会の開催
2. 氷河情報センターニュース No. 30 の編集・発行 (「雪氷」70 巻 3 号, 387-391)
3. オーガナイズドセッション (講演会) の企画
4. BGR, モノグラフのバックナンバーの PDF 公開作業完了
5. 氷河情報センター HP の一部改訂

<2007 年度会計報告>

- 2) 役員改選 (○: 今回新任, 他は継続または再任)
センター長: 幸島司郎 (京大)
財務幹事: 杉山 慎 (北大低温研)
庶務幹事: ○中澤文男 (新領域融合研究センター/極地研)
広報幹事: 三宅隆之 (極地研)・○岡本祥子 (名大)・○津滝俊 (北大)

3) 活動方針・予算案の承認

<2008-09 年度活動方針>

1. 2009 年度総会の開催

2. 氷河情報センターニュースの編集・発行
3. ミニシンポジウム開催の検討
4. 氷河情報センター HP の改良・充実
＜2008 年度予算案＞
- 4) その他

分科会活動支援金の利用計画について

(三宅隆之：国立極地研究所，中澤文男：
新領域融合研究センター/国立極地研究所)
(2008 年 10 月 3 日受付)

2008 年極地雪氷分科会オーガナイズドセッションおよび総会の報告

日本雪氷学会全国大会期間中の 9 月 25 日 15 : 30～18 : 00 に東京大学工学部 2 号館 212 講義室 (B 会場) にて極地雪氷分科会のオーガナイズドセッションならびに総会が 34 名の参加者を得て開催された。当日は，本山秀明分科会長の挨拶の後，以下の 1 から 6 の報告があった。ここでは，セッションならびに総会の概要を報告する。

プログラム

I. オーガナイズドセッション 15 : 30～17 : 30
「南極観測隊報告およびドームふじ観測計画の主要な成果」

趣旨説明 分科会長・本山秀明 (極地研)

1. 第 48 次南極地域観測隊 (越冬隊) 報告
福井幸太郎 (極地研)・中澤文男 (極地研)
2. 日本一スウェーデン共同トラバース隊報告
藤田秀二 (極地研)・榎本浩之 (北見工大)
3. ドームふじ観測計画報告
プロジェクト概要 本山秀明 (極地研)
深層コア解析の主要な成果
東久美子 (極地研)

II. 総会 17 : 30～18 : 00

4. 事業報告
南極観測将来計画検討 WG 報告
本山秀明 (極地研)
国際対応幹事報告 杉山 慎 (北大低温研)
ホームページ対応幹事報告
館山一孝 (北見工大)
5. 会計報告 亀田貴雄 (北見工大)
6. 役員改選

1 では，今年の 3 月末に帰国した第 48 次日本南極地域観測隊 (以下，「48 次越冬隊」と記す) の福井幸太郎氏と中澤文男氏による南極での主要な観測成果の報告があった。

2 では，日本一スウェーデン共同トラバース隊の報告があった。この調査隊は，49 次夏隊 (藤田秀二氏，榎本浩之氏，杉山 慎氏)，48 次越冬隊 (福井幸太郎氏，中澤文男氏)，スウェーデン隊 (9 名) からなる合同調査隊で，2007 年 11 月から 08 年 1 月にかけて南極沿岸の S16 地点からドームふじ基地，会合点 (72°S, 32°E, 3750 m)，コーネン基地 (ドイツ)，ワサ基地 (スウェーデン) までの約 3000 km を踏査し，このルート上でレーダー観測，積雪断面観測，化学分析用試料採取，無人気象観測装置の設置などを実施した。スウェーデン隊による内陸観測の方法は日本の内陸観測の方法と異なる点が多く，興味深い内容であった。

3 では，2007 年 1 月に 3035.22 m (おおよそ 72 万年前に相当) までの掘削が終了したドームふじ観測計画の概要ならびに主要な成果が紹介された。

4 では，今後の南極観測の動向 (南極観測将来計画検討 WG)，極地雪氷学に関わる国際的な取り組み (国際対応幹事報告)，極地雪氷学会のホームページの更新状況 (ホームページ担当幹事報告) が配布資料とともに報告された。なお，当日の配布資料は，以下の極地雪氷分科会のホームページ (<http://www.seppyo.org/~polar>) に掲載しているので，興味のある方は参照していただきたい (ホームページ画面での **活動報告** → **2008** に配布資料を掲載)。

5 では，2007 年度の会計報告とともに 2008 年度の会計計画が報告され，了承された。その際に極地雪氷分科会では 1998 年以来，会費を徴収していないため毎年の財政が徐々に厳しくなっており，今年度より有志からの寄付 (一人 1 口 1000 円) を募集することが報告された。当日さっそく 8 名の方々から寄付があった。